

53 リハビリテーション目的で入院している脊髄損傷患者の自宅退院に影響する 要因

病院看護部 3階西病棟 渡邊茜 山下歩美

【背景】車椅子での自立した生活が見込め入院時は自宅退院に対して前向きだった患者が、退院が近づくと消極的になり入院期間の延長や転院を希望する場面を見受ける現状がある。

【研究目的】リハビリテーション病棟に入院中の脊髄損傷患者の自宅退院に影響する要因を明らかにし、退院支援の一助とする。

【研究方法】対象：平成30年8月～10月までA病院に自宅退院を目標としてリハビリテーション目的で入院し研究に同意を得られた脊髄損傷患者6名。データ収集：半構成的面接法。入院当初と現在の退院に対する思い、退院後の日常生活への思い、退院後の環境を質問項目とし1人1回11～15分実施した。分析方法：退院を促進させる要因、消極的にさせる要因の視点からサブカテゴリー・カテゴリーを作成し分析した。

【倫理的配慮】当センターの倫理審査委員会の承認を得た。対象者へ本研究の趣旨説明と参加の自由、調査以外の目的で使用しないこと、調査終了後のデータは破棄することを文章で説明し同意を得た。

【結果】対象者は男性5名・女性1名、平均年齢53.8歳、障害部位は頸随1名・胸随3名・腰随2名であった。自宅退院に影響する要因として8個のカテゴリーが抽出された(表1)。

1. 日常生活動作：日々行っている移乗や入浴動作について不安の訴えは少なく未経験の動作、介助が必要な動作、環境や介助者が変わることによる動作の不安定さに対して不安があった。
2. 身体機能：回復に対する喜びの一方で便失禁に対しての不安な声が聞かれたが対策を立てていた。
3. 自宅環境：問題ないことを確認している箇所への不安はなかったが、確認や改修が必要な箇所に対する不安があった。
4. 社会資源：自己導尿物品の定期購入など社会資源を活用しても経済的な負担がかかる事に不安があった。
5. 社会復帰：社会復帰に対する意欲もあったが、仕事内容が変更されることによる不安があった。
6. 公共交通機関：利用に消極的であった。
7. 協力者：家族がいる安心と共に遠慮があった。
8. 漠然とした思い：「なんとかなる」と前向きでいようとする気持ちがある一方、予測不能な状況に対する不安があった。

【考察】日常生活動作が確立した場合は不安の訴えが少なく、日常生活動作の習得、自宅環境と身体機能の一致による安心が退院を促進させる要因と考えた。一方、社会資源を活用しても日々の生活の中で金銭的な負担が大きくなる場合があること、復職時の配置転換や仕事内容の変更、公共交通機関の利用に対する不安、家族に対して遠慮する気持ち、身体機能が変化した状態で社会生活へ移行することに対する漠然とした不安が退院を消極的にさせる要因であると考えた。調査で日常生活動作の習得状況や自宅での生活状況、家族への遠慮が退院への意欲に影響することが分かった。日々の実践において退院に向けた情報収集の参考とし患者が前向きに自宅退院できるよう具体的な支援に反映させたい。

表1 自宅退院に影響する要因

カテゴリー	サブカテゴリー	コード(件数)
日常生活動作	入院環境での日常生活動作の習得	移乗動作が自立した(3)
		日常生活動作は獲得した(1)
		シャワー動作自立した(1)
	未経験の日常生活動作	移乗動作に不安がある(1)
		各動作に不安がある(1)
		杖なし歩行に不安がある(1)
		排泄に関する不安がある(1)
		更衣・排泄動作は1人でできず介助が必要(1)
	便失禁の動作への不安がある(1)	
	入浴動作に不安がある(1)	
身体機能	現状の身体機能に対する受け入れ	機能回復する喜び(2)
		排便コントロールできる(6)
		排尿コントロールできる(1)
		自分の機能回復に対して過度な期待をしなかった(2)
	身体機能の受け入れと回復に対する葛藤	回復の余地があるのではない(1)(2)
		想像していた8割近くの身体機能は回復した(1)
自宅環境	自宅環境と身体機能の一致による安心	バリアフリーで改修はしなかった(1)
		トイレの改修はした(2)
		居室の改修はした(1)
		室内手すり設置した(1)
		室内移動は問題なかった(1)
		キッチンの改修はした(1)
	自宅環境と身体機能の不一致による不安	以前家族が使用していたものが自分にあうか不安がある(1)
		改修が済んでいない設備に不安がある(1)
自宅周囲の環境は道路整備されていない(1)		
	自分に合う物件が見つかるか不安がある(1)	
社会資源	社会資源の活用により退院準備ができた	介護保険サービスを利用する(3)
		身体障害者手帳はスムーズに支給された(2)
	社会資源への不満	自宅改修に関して情報公開が少なく時間がかかった(1)
		障害者手帳の支給が遅くなると退院準備に支障がでる(1)
		排尿物品は医療保険を利用してもコストがかかる(1)
社会復帰	社会復帰に対する意欲	就労形態を検討し早期に社会復帰を希望している(1)
		復職のことを思案するとおもしろい(1)
		なんでもいから仕事をしたい(1)
	社会復帰に対する不安	復職時の職務上必要な動作が不安がある(1)
		体調優先で仕事していきたいが実際は難しい(1)
		仕事の方向性が変わりストレス・疲労がある(1)
	仕事のことで家族に負担をかけたくない(1)	
	仕事ができるか不安である(1)	
	今の職場に復職できない。できる仕事を探す(1)	
公共交通機関	公共交通機関の利用に対する不安	電車の乗り降りは1人では不安がある(1)
		新幹線の座席に1人では移乗できない(1)
		バスの乗車に対して不安がある(1)
協力者	頼れる介助者・協力者の存在	家族が協力者である(3)
		介助者は常に家にいる(2)
		車への移乗時介助者のサポートがある(1)
		家族以外にも協力者がいる(1)
	介助者・協力者に対する本音と遠慮	家族への遠慮(4)
		家族への介護負担(2)
必要時介助を受けられない不安がある(3)		
	介助者の選定に対する希望(2)	
	近くに協力者はいない(1)	
漠然とした思い	なんとなくなる	自宅退院に対し大丈夫、なんとなくなる(1)
	漠然とした不安	自宅退院に対し不安がある(6)
		予測不能な状況に対しての不安がある(3)
	自分の身体機能の見通しについて知りたい(1)	